

指定校番号	28065	学級活動	児童会・生徒会活動	○	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	-----------	---	------	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立因島南小学校	校長	上野 克典	生徒指導主事	兼田 和佳
-----	------------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『校風を創る』**

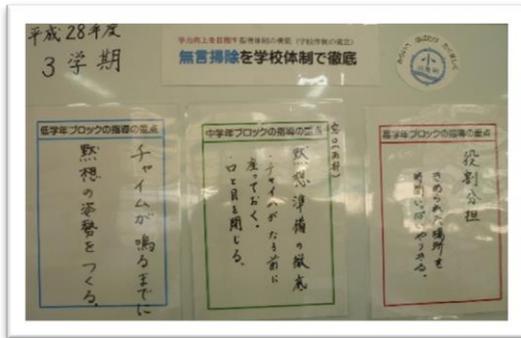
**取組のねらい『校風を創造するために必要な資質、能力の育成』**

- ・課題発見・解決能力の育成（自ら課題を見つけ、それに取り組む）
- ・自己肯定感を高め、自己指導能力を身に付けさせる。

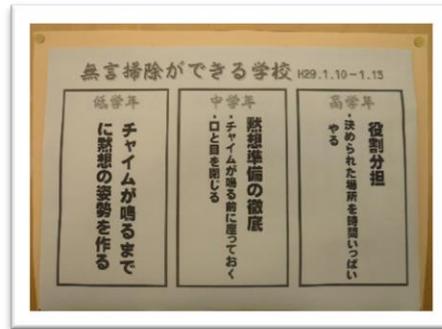
**取組の具体的内容『PDCA サイクルに則った課題解決』**

- ①問題の発見，目標の設定：「一人一人が役割を自覚し，よりよい学校を創る」（委員会活動の活性化と常時活動）・『無言掃除』を学校の伝統に引き上げる」
- ②課題の解決に向けた協議及び方法の決定：児童会からの提起←→各学級で課題解決に向けた取組を協議（一人一人の児童が課題を共通認識及び合意の形成：意欲の向上）←→学校体制で支援（教職員はブロックに分かれて「無言掃除」の具体化に向けた重点指導項目を一週間のスパンで設定）

【「無言掃除」ブロック重点指導項目】



【重点指導の見える化：共通理解】



- ③実践化（自己有用感，肯定感の育成，意義・目的の理解，役割の自覚化，責任ある行動をめざす）
  - 全委員会で常時活動を実施・評価活動の充実（意欲の向上）→よりよい生活をつくろうとする態度
  - （例）栽培委員会・花の水やり・清掃活動

【栽培委員会の常時活動】



【評価活動の充実：意欲化】



美化委員会・「無言掃除」の点検，評価・清掃活動 等

【掃除前の黙想】

【掃除の様子・美化委員会点検】

【掃除の評価】



- ・校内放送で無言掃除ができていない場所を評価
- ・がんばり表にシールをはる→評価の見える化

○児童会による挨拶運動—「因島南小あいさつの木」の取組（全学級輪番で挨拶運動に参加）

【児童会：掲示物作製】

【協働：児童会への支援活動】

【あいさつ運動の実際】



○「因島南小4つのきまり」を基軸に学校風土の創設—自己の成長を実感，自己肯定感に繋げる。

【学級活動：はきもの揃え係】一点検と課題の発見

【はきもの揃えの現状】



④定期的な振り返り—意識化，実践の継続，新たな課題の発見→次の段階，ステップへ

#### 取組の課題・創意工夫『課題発見力と評価の充実』

- ・課題解決能力の育成には，まずは，実態を見せ，課題を発見させ明確にすることが必要である。次に明確にした課題を分析し，誰がどのようにして取り組み実践していくのかを児童と協議し，それを共有することが重要である。児童との共有化においては，工夫，改善する必要がある。
- ・児童の実践における意欲の高揚，継続化を図るための評価を点検表に記入する等して児童に返していった。日常的な評価は次の活動意欲に繋がった。

#### 取組の成果（効果）『取組のプレゼンスを問う』

- ・常時活動をする意義を自己の成長と学校の形成者としての自己の役割の中で捉えさせることにより，責任を持って活動する態度が身に付くとともに自己有用感が高まりつつある。
- ・「はきもの揃え」の取組では，揃え方のモデル（掲示物）を児童と共有し，各学級の点検活動を展開することで，自己指導能力の育成を図った。また，校内放送を活用し，取組の意義を理解させるとともに，児童への評価活動を大切にしたい。結果として，児童肯定的評価は91.2%であり，児童の意識は高揚し定着してきた。

#### 今後の展開『話し合い活動の充実』

- ・児童会と連携し，学校生活における問題点に気付かせ，それを話し合い活動を通して，解決させるシステムの一層の確立をめざし，それを充実させる。
- ・児童とともに「無言掃除」を校風に引き上げる営みを行う。（3学期の最重点目標として，全職員で共通認識）

#### 他校へのアドバイス『意識付け・共有化』

- ・児童の主体性を育成するには，児童と課題を共有し，実行のための計画（方策の思考），振り返りを意識付けることが重要である。
- ・全児童による課題（取組の存在意義を含む）の共有化と児童との取組の方法の共通理解は取組を推進するうえで必要不可欠である。